

授 業 科 目	応用化学特論		
開 設 学 科 学 系	基礎学系	区 分 ・ 単 位 数	専門共通・必修選択・2単位
受 講 年 科 ・ 学 期	全専攻1年・前期	授 業 形 態	講義
キ ー ワ ー ド	化学の復習と発展、危険物、味と匂い、有機化学		
関 連 科 目	基礎化学、化学		
担 当 教 員	吉井 文子		
連 絡 先 (オ フ ィ ス ・ ア ー)	事前にメール等により調整を行った上で質問に応ずる		
教 科 書	必要に応じて資料の配布		
補 助 教 科 書 等			
参 考 図 書	“Chemistry for Today: General, Organic, and Biochemistry” Seager and Slabaugh (教官室にあり：閲覧等希望者は申し出ること)		
プ ロ グ ラ ム 目 標	(B-1)		
プ ロ グ ラ ム 合 格 点	60点		
達 成 目 標 (合 格 点)	各達成目標の評価方法 (評価の割合/重み)		
<ul style="list-style-type: none"> 化学の基礎的内容を英語の化学用語を含めて、6割程度は理解している。 薬品等に関する知識と取り扱い方法について、甲種危険物取扱者試験に準じた基本的設問に答えることができる。 味物質と匂い物質について、分子の特徴、抽出、分析、受容機構、解析法のいくつかについて説明できる。 	英文による化学の基礎、危険物の取り扱い、味と匂いに関する理解を、前期定期試験 (60%)、小テストとレポート提出(30%)、課題発表 (10%) で評価する。		
履 修 上 の 注 意	化学を履修してから時間が経過しているため、化学の基礎的内容とそれ以降の発展事項を、英文の資料を配布し講義する。また、実用面での化学物質に関する知識を身につけてもらうため、課題として甲種危険物取扱者試験の内容を持ちまわりで説明してもらう。ほとんど毎時間、簡単な小テストとプリント提出を課す。		
授 業 計 画			
項 目	学 習 内 容 等		時間数
<ul style="list-style-type: none"> 化学の復習と発展事項 化学物質の安全性と取り扱い 味と匂い 	<ul style="list-style-type: none"> これまでに学んだ化学の内容の復習と一步進んだ内容について、英文資料などを用いて講義する。特に原子間の結合、有機化合物について説明する。 危険物などの化学物質に関する知識と化学物質の安全性や取り扱い上の注意点などを学ぶ。 学生自身に危険物取扱者試験問題を解説してもらう。 化学情報である味物質、匂い物質について取り上げ、分子の特徴、抽出法、分析法、受容機構、解析法などについて説明する。 		10 10 10
前期定期試験	前期定期試験までの学習内容		—
合計授業時間数(前期および後期の定期試験は除く)			30
成績の算出方法	前期定期試験 (60%)、小テストとレポート提出等(30%)、課題についての発表と説明 (10%) で評価する。		